

ナ年
イ1
ラ1
ク攻
ウ侵

支援継続が必要

AMDA 派遣医師ら報告会

ロシアのウクライナ
侵攻から24日で1年を
迎えるのに合わせ、避
難者支援に取り組んで
いる国際医療ボランテ
ィアAMDA（岡山市
北区伊福町）は23日、
派遣スタッフによる報

告会を市内で開いた。
戦闘の長期化で市民の
被害も相次いでいると
し、支援継続の必要性
を訴えた。（1面関連）
AMDAによると、
侵攻開始直後の22年3
月から10月までに医師

5人、看護師6人、調
整員3人をウクライナ
の隣国ハンガリーに派
遣。避難者らの医療的
なケアに当たったほ
か、現地の支援団体に
医薬品や食料、発電機
などを提供している。

報告会では、AMD



ウクライナへの支援継続を訴える菅波理事長
（奥左端）ら

A理事の調整員・難波
妙さん（59）、医師の吉
田純さん（50）ら7人が
発表した。難波さんは、
現地の支援者が「日本
からのサポートがない
と活動は困難だった」
などと語る動画を紹
介。世界的な物価高に
よる物資や光熱費の値
上がりも課題だと説明
した。
吉田さんは、持病薬
を持たないまま避難を
余儀なくされた市民の

診察に当たった経験を
説明。戦禍のストレス
で病状が重くなった人
もおり「戦争は絶対に

起こしてはならないと
実感した」と語った。
菅波茂理事長（76）は
「侵攻が長引き欧州で

は「支援疲れ」も垣間
見える」と指摘。それ
でも「ウクライナ人は
世界の支援を求めてい

る。私たちができるこ
とを続けていく必要が
ある」と出席者に呼び
かけた。（石井聡）